



## 薬師瑠璃光如来に於ける瑠璃光の意味

薬師如来は、一般的に「薬師瑠璃光如来」と称されている。その正式名称は、「東方浄瑠璃教主薬師瑠璃光如来」である。薬師如来の浄土は、東方にあるとされ、「浄瑠璃世界」と呼ばれている。浄瑠璃の「浄」は、清浄・清らかさを表し、浄瑠璃世界は、瑠璃の浄土、つまり、大地が瑠璃から成り、建物や用具が七宝造りで、無数の菩薩が住むとされる。

薬師如来は、別名が「医王仏」で、釈尊（お釈迦様）と一体で、釈尊の衆生救済の働きを表すと考えられている。薬師如来像は通例、右手の五指を揃えて伸ばし、手のひらを前に向ける施無畏（せむい：恐怖心を取り除いて救う）の印を結び、左手に薬壺（やっこ）を持っている。その薬壺には、心身や社会のすべての病・苦しみを治す薬が入っている。

薬師如来について説かれた『薬師瑠璃光如来本願功德経』（俗称、『薬師経』）では、「東方」は太陽が昇る東、つまり、私たちが生きている現世を表す。西方極楽浄土の「西方」は、死後の世界を表す。

瑠璃は、深い青色の美しい宝石（ラピスラズリ）で、瑠璃光は、薬師如来の功德（衆生の苦を取り除き楽を与える大悲）を象徴している。  
(吉村耕治)

## ●旅でみた色 青い花・ネモフィラ

春になり、お出かけすることが多くなり、きれいな景色にホッとします。

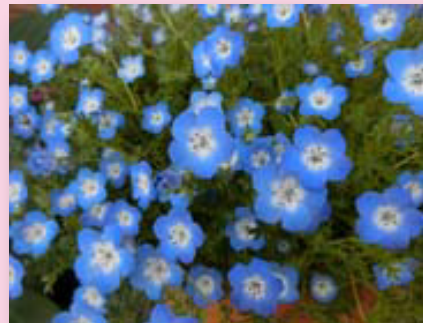
茨城県・国営ひたち海浜公園にある「みはらしの丘」に咲く530万本のネモフィラは素晴らしい。空の青と一面の青い花畑である。

ネモフィラは北アメリカ原産の1年草、和名は「瑠璃唐草」これは花が瑠璃色・葉っぱが唐草模様だったためと言われている。小学館・色の手帖を見ると、瑠璃色は「宝玉の瑠璃のような色」「こい紫みの青」とある。

日本には100年ほど前にネモフィラが入ってきたそうだが、きれいな青は宝玉の瑠璃のように美しくこの名前を付けたのだろう。英名は「ベビーブルーアイズ」赤ちゃんの青い目。なんと可愛い名前だろう。ネモフィラは森の近くに生息しているのでギリシャ語で「nemos 小さな森」と「phileo 愛する」の意味が組み合わさった言葉だそうだ。

様々な花の咲く春を今年は満喫しようと思う！！

(Sizuka)  
瑠璃をくみあわせました - 永田



## ●大辞泉ひろいよみ 18ーい

**色分解**：写真製版するとき、現行の色を原色インキの成分に応じた黄・赤・藍の三色、あるいは墨を加えた四色に分解し、それぞれフィルムに写すこと。またカラーテレビなどで、もとの色を赤・青・緑に分け、三つの画像を得ること。

**色奉書**：いろぼうしょ。色をつけた奉書紙。主に福井県で作られる。

**色本**：情交の様子を描いた本。春本。艶本。色見本をとじたもの。

**色町・色街**：花柳街。特に、遊郭。遊里。色里。

**色見本**：布地・染料・印刷などの色の見本。また、それを分解、整理したもの。

**色斑**：いろむら。一様であるはずの色に、濃淡があること。

**色目**：色合い。色調。異性の気を引くような目つき。流し目。秋波。衣服・調度などの色合いの名。思いが表れている顔色・動作。そぶり。

**色目を使う**：異性の気を引くような目つき、そぶりをする。何か下心を持って、こびるような態度をとる。

**色めかし**：恋の情趣を好むようにみえるさま。色好みらしい。

\*大辞泉：小学館発行国語辞典

(永田泰弘)